



国際私法学会

(記録)

Spring 1963 — Autumn 1976

昭和24年11月4日設立

第28回 ~ 第55回

第28回總會

1963年4月21日(日) 10.00 ~ 18.00
東京大学構内 山上會議所

I. 研究報告会(10.00 ~ 16.00)

(1) 「ハーグ国際私法会議と~~本國法主義思想~~
法の属人性原則」

報告 川上太郎 (神戸大学)
司会 江川英文 (立教大学)

(2) 「ブタマンテ海峽 および「モンテビデオ条約」における属人法の問題」

報告 川上太郎 (神戸大学)

(3) 「スウェーデン国際私法条約における属人法の問題」

報告 江川英文 (立教大学)
司会

以上の研究報告について、それぞれ活発な質疑応答があった。その後、林国二郎氏(法務省)より、最近のハーグ条約における属人法の問題についての紹介があり、ついで、先月末帰国した中場洋一氏(一橋大学)から、東国法学界についての印象が述べられた。

II 総会 (16.30 ~ 17.00)

- (1) 別紙の1962年度の会計報告を承認。
- (2) The Japan Annual of Law and Politics, No.12の執筆を柴場氏に委嘱する件を決定。柴場氏はこれを受諾。
- (3) 学会連合の研究連絡委員として、川上太郎、池原孝雄、西氏を推薦する件を決定。
- (4) ^{理事の}国際法学会において「国際法辞典」(仮称)編集の計画があることを説明し、国際私法関係の項目について会員に執筆が依頼された場合には、協力するよう要請された。
- (5) 総期学会は、予この計画に従い、属人法の肉體の比較法的研究をテーマとし、柴場淳一(米国法)、本浪章一(英法)、溜池良光(フランス法)、桑田三郎(ドイツ法)の諸氏に、研究報告を委嘱する件を決定。なお、学会の日時、場所については、他学会との関係等も考慮して、追って決定するに決した。
- (6) 新入会員として蘇遠成氏(東京大学大学院修士課程在学)を承認。

III 懇親会 (17.00 ~ 18.00)

IV 出席者

柴場淳一,	五十嵐清,	池原孝雄,	岩崎 柏,
江川 英文,	頭 龍雲,	岡本嘉八,	加藤令造,
川上太郎,	川又良也,	斎藤武生,	佐藤信太郎,
島本英夫(研・総),	蘇遠成,	谷川 久,	田村 精一,
島居淳子,	西 賢,	早田芳郎,	本浪章市(研・総),
丸岡松雄,	三浦正人,	村岡二郎,	天ヶ崎武勝,
柳井恒夫(懇),	山田鏗一,	喜川篤典(研・総),	

— 27名 —

V. 国際私法学会有志懇談会

1963年4月19日(金) 16時から、共済組合横浜集会所において、理事、連絡員両の会務の連絡、協議の爲め、会合をもつた。

先ず、総会に付議されるべき事項その他、懸案の諸問題について協議の後、夕食を共にし、同夜は同所に宿泊、翌朝解散した。

本会合の出席者は次の通りである。江川英文、斎藤武生、川上太郎(以上理事)、山田鏗一、天ヶ崎武勝、西賢、池原孝雄。—— ~~折茂~~ 折茂、久保、溜池、桑田、頭藤の諸氏は、案内に欠席した。なお、以上のほか、有斐閣の新川正美氏も出席し、国際私法講座第3巻の出版促進について協力を求めた。

第29回總會

1963年10月15日(火) 9.30~18.00
関西学院大学法学部

I 研究報告会 (9.30~17.00)

(A) 研究報告 (9.30~12.30, 13.30~15.00)

司会 江川英文 (立教大学)

- (1) 「共同研究報告の基本方針」
川上右郎 (神戸大学)
- (2) 「フランス法における属人法内題」
早田芳郎 (東洋大学)
- (3) 「ドイツ法における属人法内題」
川上右郎 (神戸大学)
- (4) 「イギリス法における属人法内題」
本浪章市 (関西大学)
- (5) 「アメリカ法における属人法内題」
大木場準一 (一橋大学)
- (6) 「総括」
川上太郎 (神戸大学)

(B) 討論 (15.00~17.00)

司会 山田鏗一 (名古屋大学)

江川・折茂・川上・大木・堀池・池田の諸氏等から質疑あり

意見が述べられ、活発な討論が行われた。

II 總會 (17.00~17.30)

(1) 次期大会に関する件

第30回總會は、1964年春名古屋大学で開催。沢木(立教大)、島井(京大)、田村(関西学院大)の諸氏に研究報告を依頼するべく提案された。この計画は賛成の承認され、開催者の内び具体化されることになった。

(2) 1964年秋の大会に関する件

開催地及び時期については：オリビエール大会との関係を考え、他の学会の計画等をも考慮して検討することにした。
テーマについては：川上教授から、有るべく財産法関係の内題についての共同研究を望む旨提議された。この件は更に関係者の内び検討することになった。

(3) 新入会員承認の件

次の諸氏の入会を承認した。
西沢 修 関西学院大学法学部
下田 祥子 京都大学大学院修士課程
佐藤 幸夫 神戸大学大学院

III 理事・連絡委員の協議

昼食時を利用して、来年度の学会の計画等を相談した。

IV 懇親会 (17.00 ~ 18.00)

関西学院大学構内の教官食堂で行い、盛會裡に交歓。

V 出席者

塚場 謙一	池原 季雄	三川 英文	吹 龍雲(研総)
岡本 喜八	折茂 豊	小瀬 保郎	川上 太郎
川又 良也	久保岩太郎	前藤 武生	沢本 敬郎
佐藤 幸夫(研総)	下田 祥子	蘇 遠成	溜池 良夫
平良 (研総)	田村 精一	鳥居 淳子	土井 輝生
西沢 修	西島 弥太郎(懇)	早田 芳郎	本浪 章市
丸岡 松雄	三浦 正人	村岡 二郎	山田 鏡市
山本 敬三	和田 誠(研総)		

— 30名 —

第30回総会

1964年 4月7日(火) 10.00 ~ 18.30
中央大学言員会館

I 研究報告会 (10.00 ~ 15.40)

(1) 琉球住民の本国法——琉球法例上96問題として

報告 砂川 恵伸
司会

(2) 国際私法判例の研究手法

報告 田村 精一
司会

(3) 涉外契約に関する若干の問題について

報告 鳥居 淳子
司会 溜池 良夫

以上の研究報告に際し、それぞれ質疑討論が活発に行なわれた。

II 総会 (15.40 ~ 16.00)

(1) 報告事項

① Cavers 教授講演会並びに準備会主催の件
(事後承認)

ハーバード大学ロースクールの Cavers 教授が来日されたので、学会に引きかけ 4月4、5、6日の3日間講演会を開催した。なおその前日の4月3日にそのための準備研究会もつた。学会員の多数の参加を得て講演会は盛会であり、有意義であった。

② 会計報告

別紙の1963年度の会計報告を承認。

(2) 協議事項

① Cavers 教授名誉会員推薦の件。

② 新入会員として砂川恵伸氏(琉球大学)を承認。

③ 秋期大会の件

場所(関西)、日時、報告題目、報告者についてはおいて理事者で協議することになった。

④ Japan Annual of Law and Politics
の執筆者も火保場準一氏(一橋大学)に決定承認を得た。

III 特別講演 (16.10 ~ 17.00)

Recent Trends in Conflict of Laws.

Prof. David F. Cavers
通訳 川又良世氏

IV 懇親会 (17.00 ~ 18.30)

中央大学 学員会館内の食堂で行われ、Cavers 教授も交えて盛会であった。

V 出席者

火保場準一	池原香雄	五十嵐清	江川英文
政竜雲	加藤令造	川上太郎	川又良世
長多川篤典	久保岩太郎	桑田三郎	斎藤武生
下田祥子	沢木敬郎	佐藤幸夫	砂川恵伸
蘇遠成	田中 徹	谷川 久	田村精一
瀧池良夫	土井輝生	鳥居淳子	平 良
西沢 修	ノルマン・ロゼン	長谷川理衛	林勝トシ子
早田茅郎	本浪章市	丸岡 裕雄	三浦云人
村岡次郎	矢ヶ崎武勝	柳井恒夫	山田鐘一
山本敬三	三ツ木正次		

38名

第31回総会

1964年11月4日(水) 10.00 ~ 18.00
岡山大学学生会館

I 共同研究報告会(10.00 ~ 12.00)
テーマ「実親子の渉外的法律関係」
(1) 序説

山田 鏡一 (名産大学)

(2) 嫡去親子関係の成立
瀧池 良夫 (京都大学)

(3) 非嫡去親子関係の成立
三浦 正人 (大阪市立大学)

(4) 実親子関係の効力
田村 精一 (関西学院大)

II 総会 (13.30 ~ 14.00)

(1) 次期総会開催の件
予定時期 来春4月25日
予定場所 東京 (具体的にはまだ未定)
報告会その他については理事会に委ねることにした。

(2) 来秋のシンポジウム開催の件
会場は大阪市立大にお願いするに決した。
テーマについては会員の意見を求めるための
アンケートをとることとし、用紙が配布された。
アンケートは池原教授のもとに集められテーマ決定の
資料とされることになった。

III 討論会 (14.00 ~ 16.30)

(1) 総括

山田 鏡一 (名産大学)

(2) 討論

司会

山田 鏡一 (名産大学)

午前に行われた共同報告に関して、解釈論上、立法論上の
問題点对抗を述べ活発な議論が行われた。

IV 理事会

昼食時を利用して開催。

来春の国際私法学会報告候補者：山本、土井氏加
国際私法学会の報告候補者には山本、土井、早田氏
が挙げられた。

V 懇親会 (16.30 ~ 18.00) ホテルニッパツ宴会場

栗山国際法協会日本支部長も来席され盛會裡に会談が
行なわれた。

VI 出席者

林 昌一
五十嵐 清
桑田 三郎
田村 精一
早田 芳郎
山田 鏡一

池田 文雄
江川 英文
沢木 敬郎
鳥居 淳子
本浪 章市
山本 敬三

池原 孝雄
政 龍雲
島本 英丈
土井 輝生
丸岡 松雄
ノーマン・ポテン

山崎 柏
川上 太郎
瀧池 良夫
中村 武
三浦 正人
-23名-

第32回総会

1965年4月26日(月) 10~18時
立教大学

I 研究報告会 (10.00~15.30)

(1) 国際民事訴訟の一面における当事者の意思の
働き

報告	林 昭 トシ子
司会	池 原 季 雄

(2) 不法行為のポロハーパー・ローについて

報告	西 賢 一
司会	山 田 鏡 一

以上の報告に対し それぞれ質疑討論が活発に行な
われた。

II 総会 (15.40~16.00)

(1) 役員改選の件

理事及び理事長の任期を秋期総会まで延長することに決定

(2) 新入会員紹介の件

理事承認にもとづいて、横関昇(青山学院大博士課程)、大田口弘(司法研修所)の2氏が新入会員として紹介された。

(3) 学会事務所の町名変更の報告の件

学会事務所の町名が

文京区本富士町一 → 文京区本郷七丁目三番一
と変更されたことが報告され承認された。

(4) 秋期総会、研究会開催の件

理事会の決定に基づき、10月15日に大阪市立大
にて開催する。研究会報告はシンポジウム形式
とする。その統轄を桑田三郎教授に委属するこ
と。テーマはなお~~理事会~~協議することか報告され承認
された。
(関係者同)

(5) 会計報告

創紙の1964年春会計報告を承認。

III 理事会

昼食時を利用して開催

総会議事(1)を決定、(2)を承認、(3)を諒承、
(4)を決定した。Japan Annualの執筆者を
大塚場準一助教授に委属することに決定。

IV 懇親会 (16.30~18.00)

立教大学内にて行なわれた。大塚大塚もま之と盛会
視に交歓が行なわれた。定刻を過ぎても暫く議論、飲
談かつつした。

V 大会出席者

大塚場 準一	池原 季雄	岩崎 相
五十嵐 清	海老沢 美広	政 竜

園 幸 善 八	川 上 太 郎	川 又 良 也	久 保 岩 太 郎
佐 藤 哲 夫	沢 木 敬 郎	砂 川 恵 伸	田 中 徳
田 村 精 一	土 井 輝 生	鳥 居 澄 子	中 林 武
西 賢	西 迪 雄	林 陽 子	早 田 芳 郎
本 浪 章 市	丸 岡 松 雄	山 田 鐘 一	山 本 敬 三
三 浦 心 人	横 関 昇	大 田 口 紘	三 木 公 次
ノーマン・ジェン	大 郷 心 夫		

— 了 又 名 —

Ⅵ 理事会 去 席 者

久保岩太郎(辞) 川上太郎(理事)
 池原章雄 山田鐘一 三浦心人 川又良也
 沢木敬郎 大塚場 準一

第 33 回 総 会

1965年 10月 15日 (金) 10.30 - 18.30
 大阪市立大学 本館

I 研究報告会 (10.30 - 12.00, 15.00 - 16.30)

(1) 英国国際私法における準法の準拠法と準法の
 相続権

報告 本浪章一
 司会

(2) マンチニにおける民族主義の法理論

報告 桑田三郎
 司会

II 総 会 (12.30 - 13.00)

(1) 理事改選の件

現理事再選決定
 新たに選任された理事— 溜池, 山田, 桑田, 池原
 常務理事— 池原, 溜池

(2) 監事 — 実方教授再選

(3) 新入会員紹介の件

三井哲夫(法務省) 金辰(京域大学) 福田 澧(身
 護士) の三氏から理事会の承認のもとにて紹介。

II 理事会 (9.30 - 10.30)

特に池原, 溜池山田の三氏が出席. 桑田氏も出席
より連絡があったら都合がよい.

(1) 理事改選の件

交替(川上俊)が補充(齋藤浩)の必要が強く
増補の見解が支配的. 新に補充のため選任された
候補者: 池原, 桑田, 溜池, 山田. この他, 今後
近い機会に地域別のバランスを考慮の上更に補
充するに了解.

(2) 監事改選の件.

三浦教授の交替するに話題もあつたが, 結局
現状維持(実方教授留任)

(3) 理事長改選の件

現状維持を要望する齋藤教授等に全員賛成
江川理事長に譲承.

(4) 常務理事選任の件

新に常務理事を設け, 池原, 溜池両氏とこれ
とこれ(関東, 関西側の連絡を容易, 円滑にするた
めに選任するに決議)

(5) 新入会員承認の件

三井雄夫(法務省), 金辰(京成大), 福田 彊
(弁護士) 新入会承認

IV 総会出席者

木場淳一, 池原香雄, 岩崎和, 江川英文 欧竜堂, 川上俊, 川又良也
久保岩太郎, 実方正雄, 折茂豊, 砂川恵伸, 齋藤武生, 田村精一, 溜池良夫
沢木菊太郎, 鳥居淳子, 西 賢, 早田茅郎, 本浪章市, 林勝一, 土井 賢
三浦正人, 丸岡松雄, 畑口 詠, 横関昇, 山田鏡一, 桑田三郎

1966年4月24日(日) 10.30 - 18.00
関西大学会館

I 研究報告会 (10.30 - 12.30) (13.30 - 15.30)

(1) 最近におけるアメリカ国際私法への傾向
報告 川又良也
司会 澤木 新郎

(2) 石油コンセンション契約における国際私法問題
報告 土井 輝 賢
司会 西 賢

II 総会 (15.30 - 16.00)

- (1) 会計報告の件
別紙の1965年度会計報告を承認
- (2) 学友連合代表理事選出の件
池原季左衛門教授, 溜池良夫教授を選出
した理事会の決定を承認
- (3) 新入会員承認の件.
高野 耕一 (大阪地裁判事), 松岡博 (大阪大学法政)
木村 照一 (名古屋大学大学院) の三氏の入会を承認.
E 37 21 19
- (4) 秋期総会開催の件.
(1) 期日私法学会に近づけること

1966年10月7日(金) 10.30-17.00
東京大学出版会館

- (ロ) 開催予定校 - 橋大等
- (イ) 報告者. テーマ. ... プレゼントを集めるに
当り用紙を配布し. 集めた.
- (ニ) Loussearn 教授のセミナーについては東京で準備
検討するに.

(5) 年会費値上げの件.
秋期総会より 500円とする理事会案を承認.

III 理事会 昼食時を利用して開催.
総会議事のそれぞれにつき. (1), (3) を承認. (2), (4),
(5) を決定し総会に提出することを決定.

IV 懇親会 (16.00-18.00)
関西大学会館内にて行われ. 盛会裡に交歓が行
なわれた.

V 総会出席者

株場 準一	江川 英文	岡本 善八	政龍 雲
川上 太郎	川又 良也	田中 徳	田村 精一
斎藤 武生	澤木 敬郎	上井 輝生	島居 淳子
西 賢	三ツ木 公次	三浦 正人	松岡 博
丸岡 松雄	山本 敬三	和田 誠一	瀧池 良夫
木 棚 照一	山田 鏡一	本浪 章市	

- 23名 -

I 研究報告会 (10.30-12.30)(13.30-15.30)

(1) 日華渉外身分法に関する若干の問題
報告 政龍 雲

(2) 信託契約の準拠法
報告 丸岡 松雄

II 総会

- (1) 理事長 後任の件
理事了石久率のため来春の総会まで持越された.
- (2) 新入会費の件
名古屋大学大学院 澤田 節夫氏の入会を承認
- (3) 次期総会開催の件
報告希望者は理事会にお申し立て.
開催校については理事会に一任の事. (北大の
案あり. 1967年期等の関係から今後よく検討する)

III 懇親会 (16.00-17.00)
東京大学構内 山上会議所にて行われ. 交歓が
行われた.

IV 総会出席者
株場 準一 (~~池田 文雄~~) 池田 季雄

1967年6月3日(土) 9.00~15.00
北海学園大学 法学部

~~高橋英夫~~
小瀬信郎
川又良世
~~佐藤哲夫~~
斎藤武生
溜池良夫
西賢
林脚仁子
福岡 彊
三浦 正人
山内 喜一
沢田 節夫

政 竜雪
~~大塚 一~~
木村照一
~~佐藤 幸夫~~
田中 徹
島尾 淳子
西 迪雄
早田 芳郎
丸岡 松雄
三井 哲夫
山本 敬三

~~岡本善八~~
川上 太郎
~~桑田 三郎~~
沢木 敬郎
田村 精一
~~中村 武~~
ノルマン・ジャンセン
~~本根 幸市~~
松岡 博
山田 鏡一
~~天崎 武勝~~

-28名-

V Loussouarn 教授セミナー

10月7日と11日の2回にわたり、日仏文化使節と共に来朝の Loussouarn 教授を迎えて、日本及びフランスにおける涉外婚姻法の改正についてセミナーを行った。学会内外の多数の参加を以て盛会であり、有意義であった。

I 研究報告会 (9.00 ~ 15.00)

(1) 国際商事仲裁における当事者自治の原則
東京大学 長多川 篤典
司会 沢木 敬郎

(2) 国際私法の対象
ファミリー理論を中心として
中央大学 桑田 三郎 氏
司会 西 賢

II 総会

- (1) 新入会員の件
名大卒大学院山田明世氏の入会を承認
- (2) 会計報告の件
別紙の1966年度会計報告を承認
- (3) 秋期学会開催の件
関西で行うか、日時場所については理事会に任せ。
- (4) 学会費徴収の件
前回令にのみさかのほりて徴収するに了承。
- (5) エムエフ会費基金について。
松本財団に国際私法学会用として寄附があること、用途等については今後よく考慮する。

III 懇親会

昼食事を利用して行なう。北海学園大学の学長、学部長、法学部の諸教授も参加されて盛会裡に、和気あふむ。

した中に交歓が行なわれた。

IV 理事会

理事の欠席者が多いため、次の人達が集まって相談した。
出席者 実方、池原、川上、沢木、桑田、西、株場、
次、(馬居)

(1) 江戸先生遺言の件。

総額 500,000 円のうち今年分として 100,000 円を定
しているが未使用の場合は来年度へ繰越す。

学会の紹介とあるパンフレットの作成、江戸先生の設立、外部
からの来社したときの研究会等の費用とある等の案が提
出されたが、時間をかけ、今後皆の案を練ることにする。

(2) 会費徴収の件。

総会事項(4)の提案を承認して決定。

V 総会出席者

株場 準一、池原 香太雄、五十嵐 清、大原 栄一、次
龍雲、岡 幸喜八、川上 太郎、木 柳 照一、桑田
三郎、沢木 敬二郎、実方 正太雄、砂川 恵子、読島 基典
平良、土井 輝生、西 賢、西沢 修、尾中 俊孝
谷本 理衛、田村 精一、鳥居 淳子、松岡 博
山田 明子、畑口 忠、本浪 章市。

— 26 名 —

1967年 10月11日(火)
10.00 - 18.00

大阪大学法務部

I 研究報告会 (10.00 - 15.30)

(1) アメリカの「ケネディ」法と連邦憲法の一側面
大阪大学 松岡 博賢
司会 西 賢

(2) アメリカの「ケネディ」外国法の主張と証明
青山学院大学 海老沢 美広
司会 川又 良也

II 総会

(1) 新入会員の件
弁護士 川村 明氏、西氏の入会を承認。
弁理士 木村 進一氏

(2) 次回学会開催の件
関西にて行なう。日時場所は次回理事会で決定する。
報告者、会の形式その他につきアイデアのある場合は
理事にお知らせすること。

(3) 学合費の件。
前回において決定したことの角割の確認。

III 懇親会

大阪大学から大瀬 敏雄、川島 助敏 控も
出席され、盛会 裡に交歓が行なわれた。

IV 理事会

昼食時を利用して下記のものが出席して行った。齋藤、川上、池原、溜池、西、澤木、煉場

- (1) 新入会員の件。
川村明、木村進一両氏承認
- (2) Japan Annual 来年会執筆者は林脇トシ子氏に
依頼することに決定
- (3) 会費 当回会費 + 前回会費(前回欠席者につき)を徴収
することに確認
当番様へ前回出席送付のことに事務局に伝達する。
- (4) 次回報告者予定
 - 個別報告としては、下田氏 仏におけり外口判決の承認執行(並に
金銭判決)
が候補のほり、その他に、鳥居氏の名が挙げられた。
 - 帰朝報告として、山田鑠一氏を予定
 - Symposium としては外国 齋藤婚別居判決の承認、
松岡氏(米) 本浪氏(英) 下田氏(仏) の案がとされた。
- (5) 次回開催校
関西で行なわれる予定であるが溜池氏に一任する。
- (6) 理事長後任
次回持越

V 総会出席者

煉場 準一	池原 季雄	海老沢 美云	政 竜雲
岡本 善八	川上 太郎	木村 照一	斎藤 武生
佐藤 幸夫	澤木 敬一郎	沢田 節夫	溜池 良夫
上井 輝夫	鳥居 淳子	西 賢	長谷川 理衛
林脇 トシ子	本浪 章一	松岡 博	丸岡 松雄

山田 明去 田村 精一 三井 哲夫 加藤 令造
岩崎 柏 長谷川 孝典 川又 良也 川村 明
木村 進一

1968年5月16日

10:00 - 18:00

関西大学会館

I 研究報告会 (10:00 ~ 12:00, 2:00 ~ 4:00)

(1) 物触法における Vicarious liability についての考察
東京大学 鳥居 淳子
司会 川又 良也

(2) 人事訴訟事件の判決と戸籍の記載
中央大学 加藤 全造
司会 桑田 三郎

II 系会

(1) 新入会員の件
京都大学大学院修士課程 (国際私法専攻) 梶田 嘉章氏の入会を承認

(2) 会計報告の件
1967年度会計報告を承認

(3) 科会研究費の配分・審査に関する件
河内勉らより、同知のとく、文部省と芸術会議との関係が不明である。文部省が新しい方法で審査員を選定されること、学会の協力をお願いする場合は学会の態度をどうするか、及び私法学会のこと(熊谷)を決定した学会有るが、本学会には、理事会の決定のとく、文部省から現実に依頼してきたときに、あるべき問題とすべし、本学会では態度の決定はしないことにした。

(4) 決期(39回)学会の件

・今年10月東京において開催する予定
・会場の候補として、一橋大学が選ばれた。
・開催日については関連諸論と日取を調整する。
・テ-2.報告者について、理事会で川上教授の協賛、不協賛者のためのシンポジ-4の案が紹介された。種々の議論の後、山田鑛一教授を中心として、このテーマにつきシンポジ-4を用いるか、担当者、時期(今年の秋か来年の春か)等については山田鑛一教授に一任しようとの意見が一致。なお詳細については今後山田教授を中心として検討することとした。

(5) 国際私法学会20周年記念行事の件
新秋で、学会創立から満20年を経過することになる。これを記念して、何の記念行事をしようかという意見が寄せられた。この案として、記念論文集の刊行が挙げられた。具体的には、各理事会で内容を検討することとした。

III 懇親会

関西大学会館内で、関大側の方好意により、開かれた。山田鑛一教授の2-10で溢れた場での朝談、土井 隆雄教授の貴重な体験談と同様の場、和やかに歓談が行われた。

IV 理事会

昼食時を利用して開催
系会議(1)(2)承認(3)(4)(5)の討議あり。
Japan Annual of Law and Politicsの編集者、林 朋教授の推薦され、本人の承諾を得た。

理事会出席者

久保岩太郎, 川上 太郎, 池原 季彦, 留地 良夫
桑田 三郎, 山田 鑛一
以上 6名

Ⅳ 総会出席者

杉場 淳一, 池原 重雄, 阪 龍雄, 加藤 令造
 川上 太郎, 木 柵 照一, 木 村 道一, 三 條 岩 太 郎
 桑 田 三 郎, 川 又 良 也, 鹿 島 重 典, 沢 木 敬 郎
 佐 藤 幸 夫, 田 村 精 一, 瀧 池 良 文, 島 居 淳 子
 土 井 輝 也, 西 賢, 林 脇 仁 子, 本 浪 幸 市
 松 岡 博, 山 本 敏 三, 山 田 鏡 一, 畑 口 敏 夫
 梶 田 嘉 寿

以上 25名

1968年10月16日
 10:00-18:00
 一橋大学

I 研究報告会 (10:00~12:00, 2:00~4:00)

(1) 英米接触法における遺産債務をめぐる問題
 名古屋大学 木柵照一
 司 会 山田鏡一

(2) 親権後見に関する国際私法上の若干の問題
 慶応学院大学 田村精一
 司 会 西 賢

II 総会

- (1) 新入会員の件
司法修習生 頼富 徹郎氏の入会を承認
 - (2) 次期(40回)学会の件
 - ・ 来年は東京で開催の予定
 - ・ 会場の候補地として 東洋大を。
 - ・ 報告テーマ, 報告者は会員がリポートをとり, それに基づき, 理事会で出された案が, 参考までに披露された。
- 議論案
- ① ハーブ会議の動向 (池原幹隆)
 - ② 非訟事件の国際管轄
 - ③ 連結問題, 先決問題
 - ④ 先決問題
 - ⑤ 国際民訴

- ⑥ 英国における外国離婚判決の承認
- ⑦ 英国における住所
- (3) 国際私法学会20周年記念行事について
理事会で出された案の紹介

- ① 記念論文集の発行——実現困難という声があった。
- ② 民訴学会との共催による国際民事訴訟法の研究——これには、民訴学会全体との共催ではなく、国際私法学会へ民訴学会を数名招く方がよいという提案がなされた。
- ③ パーティ開催
- ④ シンポジウムの開催。これは、^秋秋の学会において、38回学会で提案された、山田隆雄を中心とする不法行為に関するシンポジウムを開催するというものである。

III 懇親会

一橋大学構内の Faculty Club で開かれた。
三浦教授の帰朝談話。新入会員の学会への入会の動機などと同じながら、交歓が行われた。

IV 理事会

昼食時を利用して開催。
総会議事(1)(2)(3)についての討議が行われ、(1)を承諾、(2)(3)を理事会案として総会で紹介することを決定

理事会出席者

斎藤武生、久保岩太郎、川上太郎
溜池良夫、梨田三郎、山田鏡一 (欠木敬太郎)

V

総会出席者

火場澤一	五十嵐清	梶原徹郎	武龍
加藤令造	川上太郎	木村明	木村照一
久保岩太郎	梨田三郎	斎藤武生	梅田嘉孝
澤木敬郎	田村精一	溜池良夫	鳥居淳子
土井輝生	中村誠	西賢	早田芳郎
林脇トシ子	市浪章市	畑口隆	山田鏡一
昆多川篤典	山本敬三	矢ヶ崎高康	横関昇
三浦正人	松岡博	三井哲夫	

—30名—

1969年 5月12日(月)

10:00 ~ 18:30

於 ホテルタリエー (東洋大学の担当)

I 研究報告会 (10:00 ~ 12:00, 13:30 ~ 16:30)

(1) 国際海上運送をめぐる実務上の若干の問題について
報告 弁護士 平塚 真
司 会 澤木 敬郎

(2) 第11回ハーグ国際私法会議の成果
報告 東京大学 池田 季 雄
法務省民事局 味村 治
東京地裁 西村 宏
司 会 西 賢

II 総会 (16:30 ~ 17:00)

(1) 新入会員承認の件
以下の諸氏の入会が承認された。
弁護士 平塚 真
関西学院大学助教授 福永 有利
東京大学大学院 山崎 良子
島根大学文理学部法学科 浜辺 十星 之

(2) 次期学會開催の件
・場所については関西の人々に一任
・報告希望、テーマの希望があれば「理由」を申し送り
いニヒカ「理由」から伝えられた。
・懸案の研行各についてのシンポジウムは、諸搬

の事情のため延期して、今秋の学會では開催しないこと
が承認された。なおこの案につき、この問題についての責任
者山田教授から、報告予定者がいずれも学園紛争で
号仕のる準備できない旨の理由が述べられた。

・学會開催を年一回とする事について。
関連学會との関係もあり、今後全員で検討する事
とした。

(3) 会計報告の件
1968年度決算報告を承認

III 懇親会 (17:00 ~ 18:30)

東洋大学の好意で、ホテル・タリエーの別室において和やかな
開かれた。

IV 理事会

昼食時を利用して開催

・総会議事 (1) (3) を承認 (2) について討論。学會
開催を年一回とする事について、もし実行可能とにも来年から
であり、今年秋の学會は関西で開催することに意見が一致。
この問題については、今回は、齋藤 元と、折茂 理事が各
席のため今回の理事会で決まらなかった決定をしないこととした。
秋の学會の報告者の候補として 国際法学会の国際私法
部会として岡本氏、国際私法学会として、三浦、山田、三井
畑の諸氏の名が挙げられた。

・エムエスの蔵書目録作成の件
沢木氏より、この件について、蔵書目録作成、^{の決定} 範囲の決定
(この程度を「国際私法の文庫」とするが) について、学會の協力を得たい
旨の発言があった。結局 学會として委員を送り出すことはせず、
関係者に一任し、結果を学會に報告することとした。

第41回
1969秋

第41回総会

1969年10月14日(火)
10.00 ~ 18.00
京都大学楽友会館

- 理事長問題
前記三理事欠席のため、今回は議題としない
 - Japan Annual 執筆者の件
林勝氏にもう一年依頼し、不可能の場合は三浦氏に依頼する
- 理事会出席者
山田久保、池原、溜池理事の他、早田、西、沢木(島居)が参加。

- ▽ 総会出席者
- | | | | |
|--------|------|-------|------|
| 池原季左衛門 | 岡本善八 | 区龍聖 | 川村明 |
| 長谷川寛典 | 本棚照一 | 久保岩太郎 | 小瀬保郎 |
| 根田嘉章 | 佐藤哲夫 | 佐藤幸夫 | 沢木敬郎 |
| 島本英夫 | 砂川集伸 | 田中徹 | 溜池良夫 |
| 島居信子 | 中村武 | 西賢 | 西迪左雄 |
| 畑口 紘 | 林勝ト子 | 早田茅郎 | 平塚真 |
| 福永有利 | 市浪章市 | 松岡博 | 丸岡松雄 |
| 三木五次 | 山田鏗一 | 山戸嘉一 | 池田惺之 |
| 三井哲夫 | 山崎良子 | | |

-34石-

I 研究報告会 (10:00~12:00, 14:00~16:00)

- (1) アメリカ国際私法における裁判管轄権
報告 三浦正人(大阪大)
司会 川上太郎(西南学院)
- (2) 公序理論の一断面—法の時間的拒絶と空間的拒絶との交錯
報告 三井哲夫(法務省)
司会 早田茅郎(東洋大)

II 総会 (16:00~16:30)

- (1) 新入会員承認の件
京都大学大学院修士課程在学中の古木睦美氏の入会が承認された。
- (2) 次期学令開催の件
翌年の年一回論が議論されたが結論は保留し、さしあたり来春どうするかは問題とされた。各大学の情勢からみて、来春開催可能かどうかについては詳細の不明であるので、その判断は常務理事に一任するとして、もし国際法学会が開催されて、国際私法部会のもたれ子のであれば、国際私法学会も開いた方がよいという意見も出た。なお、年一回開催の点については、山田教授より学令の向きの留保が賛成意見の場合には合流し、議論を学令に斗がわせたという殊場助教授の希望、等が表明された。

第42回総会

1970年5月15日(金)
10.00 ~ 18.00
於西南学院大学

III 懇親会

京都大学芝罘会館にてスキヤキパーティとして開かれた。
学問上の議論ばかりではなく、各自の当面している学問問題
についての情報・意見の交換が活発に行なわれた。

IV 理事会

持ちまわりで総会議事(1)(2)が話し合われた

V 総会出席者

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 火和場 淳一 | 池原 孝雄 | 頼原 徹郎 |
| 坂 龍 豊 | 岡本 善八 | 川上 太郎 |
| 木 棚 照一 | 久保 岩太郎 | 佐藤 幸夫 |
| 森 藤 武良也 | 梅田 嘉章 | 沢木 敬郎 |
| 川 又 良也 | 島 本 英夫 | 平 良賢博 |
| 滑 池 良夫 | 島 真 居 淳子 | 西 松 園 博 |
| 早 田 芳郎 | 市 浪 井 哲夫 | 山 田 鏢一 |
| 三 浦 正人 | 三 古 木 睦美 | |
| 山 本 敬三 | | |

— 26 名 —

I 研究報告会 (10:00~12:00, 14:00~16:00)

- (1) 国際契約に関する若干の考察
報告 岡本善八 (同志社大学)
司会 西 賢 (神戸大学)
- (2) 仲裁における抵触法上の二、三の問題
報告 畑口 紘 (東京大学)
司会 火和場 淳一 (一橋大学)

以上の研究報告について、池原、美方、梅田(1)について、
川上、池原、美方、山田、島本(2)について等より、活発な質的
な意見が述べられた。

II 総会 (16:00~16:30)

- (1) 会計報告の件
1969年度決算報告を承認
- (2) 新入会員承認の件
北九州大学助教授河村博文氏の入会を承認。
- (3) 次期学会開催の件
東京において開催。早稲田大学に依頼したい旨が
常務理事より述べられ、早大の上井氏より、開催様
を引き受けよう協力する旨の返答があった。
テーマ、報告者については、会員の意見を募る旨が常
務理事より述べられた。

(4) 学誌発行の件
 具体化するために、今後検討を加えて行くことになった。

III 懇親会

玄海灘のぞむラ・メールというレストランにて、西南学院の諸好意にて和やかな親交の行なわれた。砂浜に降りて磯の香を楽しむ者も居た。

IV 理事会

昼食時を利用して開催。常務理事の池富、溜池、理事の川上、久保、桑田、山田、監事の美子の諸氏の他に、大木場、沢木、西、早田、三浦、(鳥居)の各氏が参加。

総会議事 (1) (2) の承認 (3) について協議 (4) については、計画を具体化するために、5人位の委員を送ることに決まり、川上から提案された。年報にしても、現在の財政状態は発行は困難であること、出席者の多くから指摘されたが、その点も今後検討することになった。

その他① Japan Annual No. 18 の執筆者を三浦氏に決定。その稿料補助を従来の、学術会議から出る稿料と同額と、一律1,000円に変更することに決定
 ② 川上から、河辺久雄氏の逝去の事通知あり、一同弔慰を祈る。

V

総会出席者

大木場 準一、池富 香左衛門、欧 龍雲
 岡本 善八、川上 太郎、木 柵 照一
 久保 若太郎、桑田 三郎、佐藤 幸夫

美 才 正 雄、澤 木 敬 郎、田 中 徹
 因 村 精 一、溜 池 良 夫、土 井 輝 之
 鳥 居 淳 子、西 賢、畑 口 詠 夫
 早 田 芳 郎、福 永 有 利、本 浪 章 次
 松 岡 博、三 浦 正 人、三 木 正 次
 山 内 鏡 一、山 本 敬 三、後 辺 惺 之
 河 村 博 文

計 28 名

43回総会

1970年10月16日(金)

10:00 ~ 18:00

於 早稲田大学

I 研究報告会 (10:00 ~ 12:00, 14:00 ~ 16:00)

(1) 渉外事件における証拠

報告 立教大 澤木敬郎
司会 西南学院 川上太郎

(2) 国際契約の準拠法と裁判管轄権

報告 広島大 山本敬三
司会 大阪市大 三浦正人

以上の報告に関し、桑田、山田、川又、鳥居、畑場、池原、對林、脇、本浪、川又、因中、実方(1)について、西、~~林~~松岡、池原、三浦、松岡、土井、実方、川上(2)の諸氏より質問あるは意見が述べられ、活発な議論が持たれた。

II 総会 (16:00 ~ 16:30)

(1) 新入会員承認の件

次の諸氏の入会を承認した。

弁護士 平林真一

中央大学大学院修士課程 渡辺裕子

東京大学大学院修士課程 因辺信彦

(2) 次期学会開催の件

時期については国際法学会開催の予定とする。

場所については、立教大学の候補にあがられ、澤木教授の承諾があった。

(3) 研究連絡委員会発足についての報告(IIIの(3)参照)

III 理事会

昼食時を利用して大隈会館の庭園に面する和室で開催された。常務理事の池原、~~田中~~、理事の川上、久保、斎藤、桑田、山田、監事の実方、9諸氏のほかに、畑場、沢木、川又、三浦、土井(鳥居)の各氏が出席。

(1) 総会議事(1)を承認

(2) 総会議事(2)について検討

(3) 学会報告のあり方について

春の学会では個人報告にし、秋の学会では共同報告とする事にほぼ意見が一致した。秋の学会の運営のため、研究連絡委員会を設け、テーマ、方法その他について同委員会に一任することになった。委員会のメンバーは、国際法学会の研究連絡委員である。早田、西、松岡、鳥居が兼ねることになった。さしあたって来秋の統一テーマについては、ハーグ条約に関するものから選んではどうかという意見が出たので、今後委員会ではこれについて検討することになった。

(4) ハーグ会議議長 De Winter 氏来日に関する件

同氏が来夏の終わり頃来日の予定であるので、講演会を開く予定である。ただし、学会主催となるかどうかは不明。この際の通訳の謝礼等と江川基金より支出することによって池原常任理事より提案があり、これについては、国際法院につき熱心であった江川教授の志を継ぐものとして一同賛成。

第44回 総会

IV

総会 出席者	五十嵐清,	池原孝雄
火場 準一,	政 竜雪,	岡本善八
瀬 富徹郎,	川上 太郎,	川又良也
加藤 令造,	三條 岩太郎,	木 柵 照一
川村 日,	佐藤 哲夫,	佐藤 亨夫
佐藤 信太郎,	梅 根 嘉章,	実方正雄
斎藤 武生,	田 林 精一,	渡地 良夫
母中 徹,	鳥 居 淳子,	西 賢
上井 輝生,	林 脇 心子,	平塚 真
早田 芳郎,	丸岡 松雄,	三木 正次
松岡 博,	本 浪 章 幸,	山 戸 嘉一
三浦 正人,	山 田 鐸一,	山 本 敬三
山崎 良子,	横 関 昇,	長 多 川 篤典
波 辺 悦之,	波 辺 裕子,	田 辺 信孝
桑 田 三郎,	砂 川 東伸,	沢 本 敬郎
三井 哲夫,		

- 45名 -

1971年 5月 8日 (土)
10:00 ~ 18:00
於 立教大学

I 研究報告会 (10:00~12:00, 14:00~16:00)

- (1) 「手続は法廷地法による」という原則について
報告 京都大学 梅田 嘉章
司令 一橋大学 火場 準一
- (2) 国際裁判管轄権帰属の要件と「わが国の実効性」の原則について
報告 島根大学 渡辺 悦之
司令 神戸大学 西 賢

II 総会 (16:00~16:30)

- (1) 会計報告の件
1970年を決算報告を承認
- (2) 次期学会開催の件
国際法学会が京都の竜谷大学で10月16・17日の両日
開かれるので、その前後に関西あるいは名古屋で開催が
開催校その他については関西の方に一任。報告の内容
報告者については今後検討する。主として研究連絡委員の
報告
- (3) ハーク合議議案 De Winter氏末日の件 (国際法学会)
a) 東京と京都で講演がもたれ予定 (東京2回京都1回)
テ-2は,
① 製造物責任の準拠法と裁判管轄権

V 懇親会

早稲田大学の湯せき亭で立食形式の和やかな
会がもたれた。いつものように、研究報告会でも十分
議論できなかった問題について個人的にあちこちで
議論されていた。

- ② 相読
- ③ ハーグ会議による国際私法統一作業の経過および将来
- 6) 時期
9月下旬か10月初旬

III 理事会

昼食時を利用して開催

出席者 久保, 川上, 池原, 溜池, 桑田, 西, 澤木, 煉場, 山田, (鳥居)

- 1) 決算報告と承認
- 2) 次期学食開催の件については総会議事(2)の他に、具体的開催校として京大, 立命館大, 同志社大の挙げられたが, 京大は人手不足, 立命館大は本棚版の着任早すぎであること, 同志社大は, 4月22日に申込みと援助が得られなかったこと, が理由となり, どれも難色が見られた。ただし, 学食にも多少の余裕ができてきたので, 当日のアルバイト代等の経費を減らすことになれば, 京大同志社大で開催は可能になる旨が話し合われた。その他に名古屋での開催も理事の多数の賛成を得た。
- 3) De Winter 録録来日については総会議事(3)の他に, 講演の謝礼, 通訳への謝礼等一応はJMF 基金から補助することも理事会が承認
- ・ 来日時期は9月25か26日に到着, 10月3日を発の最初の予定であったが, 丁度司法試験(口述)の時期と重なるため, 1週間延期してくれようとの申込みがあり, 池原理事から報告があった。
- ・ 講演を主催するお礼については, 桑田理事から

少くとも共催にはお礼のしるしを提案がなされた。

- ・ 聴衆には, 東大で開催すればいい, 大学院の学生位でいい, などに, 各研究者 実務家と考へると, 司法研修所での講演には研修生も含まれれば, 両者聴衆は双方に増える予定であると池原理事から報告された。京大での講演については, 謝礼は, 各研究者, 海外の新聞興味のある実務家の少ないので, 学食を兼ねるお礼の検討中。セミナールの学食は参加させたい。お礼に各研究者を対象に(小人輪は自由な討論の場と見られたいことを望む旨川上理事から発言があった。学食の強き望むときには一般の学食も対象とすることに異論はない旨同理事が付け言。
- (4) 学食開催校に謝礼の件
桑田理事より, 開催校に謝礼。5000円程度の謝礼と書いお礼のしるしを提案がなされたが今更検討するとのこと。

IV 懇親会

立教大学の布好意により, 立食形式で盛大に開催の内にいふ歌がなされた。

V 総会出席者

煉場 淳一	池原 季雄	梶原 徹郎	欧 竜 雲
岡本 善八	加藤 令造	川上 太郎	河村 博文
長 多川 篤典	木 本 朋 照 一	久保 岩太郎	桑田 三郎
小 瀬 保 郎	佐藤 徳 郎	佐藤 哲 夫	佐藤 幸 夫
梶 田 嘉 幸	沢 木 敬 郎	田 中 徹	田 辺 信 彦
高 野 耕 一	田 村 精 一	溜 池 良 夫	土 井 輝 之
鳥 居 澄 子	西 賢	西 沢 修	林 脇 七 子
手 塚 真	本 浪 幸 市	松 岡 博	丸 岡 松 雄
之 浦 正 人	山 田 謙 一	山 本 敬 三	横 関 昇
沼 田 悦 之	沼 田 裕 子		

1971年10月15日(金)
10:00 ~ 18:00
於名古屋大学法学部

I 研究報告会 (10:00 ~ 12:00, 14:00 ~ 16:00)

- (1) 「バウドン氏のブラジル国際私法改正案について」
報告 慶応義塾 須藤次郎
司会 神戸大 西賀
- (2) 「ドイツ国際相続法の改正について」
報告 立命館 木棚照一
司会 東京大 鳥居淳子

以上の報告において 池原, 山上, 沼池, 阪鳥居 (11:00 ~ 12:00), 池原, 山田, 炸場, 阪, 沢木, 沼池, 西, 山上, 越川 (14:00 ~ 16:00) の各氏より質問や意見が述べられた。

II 総会

- (1) 新入会員承認の件
次の諸氏の入会を承認
後藤明文 (東京大学大学院修士課程)
内藤研二 (東京大学助手)
- (2) 報告事項
De Winter 教授来会の件についての事務報告が、池原常任理事よりなされた。
- (3) 次期学会開催の件
開催様については、同志社大の岡本教授に内諾を得た。
開催時期については、関連学会との関係で定

めるとなった。

- ・ 研究報告については、会員の意見を研究連絡委員 早田, 西, 松岡, 鳥居に提出するとしておた。

III 懇親会

名古屋大学法学部の愛好会にて、法学部大会合議室において、和やかに交歓がなされた。

IV 理事会

出席者: 池原, 沼池, 山上, 山田, 三浦, 西, 炸場, 沢木 (写真)

昼食時と利用に開催

- (1) De Winter 教授来会に関する事務報告が、池原常任理事よりなされた。謝礼 (De Winter 教授に講演お礼の函状) についてお礼の東京大校同の寄附金は、江村基金の利息から支払うことになった。
- (2) 学術会議の Japan Annual 執筆の件
予算が少なくて、すべての学会の執筆が困難なため、本年度は1年分だけ休んだ方がよいという事になったため、今年度は学術会議は寄稿をとりやめて、来年度2年分をとりやめようとした。
- (3) 次期学会開催の件
 - ・ 開催地 関西の予定
開催地候補として、立命館, 京大, 同志社大があげられたが、他に、岡本教授の内諾を得た。ほぼ、同志社大に決定。
 - ・ 開催時期 国際法学会の国際私法部会が開催されるため、委員会等の関係もあり、やはり、国際法学会の近辺で開催がよい。比較法学会との関係も考慮する。
 - ・ 報告内容 総会の席上で volunteer を募りてもらう。一応、研究連絡委員に委ねることとした。
次回には個別報告がよいという事はない。その候

第46回 総会

1972年 5月11日(木)
10.00 ~ 18.00
京都社会福祉会館

補として、現在修士論文執筆中の田辺信彦氏と過去の報告頃がらみの、林脇トシ子氏が学された。今度も、新人の修士論文、助手論文等の報告の機会をもつと同時に、中堅の人達の報告も期待すると思はれた。他方、年々一言、多くは秋に、シンポジウム等の共同報告も考へなければならぬ旨の意見も強くおされた。また、あつた秋の学合においては、実務民事訴訟法講座中の池原、溜池両教授の論文のついで実務家との討論の場が設けられ、各々知平教授記念論文集に執筆された山田、三浦、田村、三教授の不正行為、不審利得事務管理に関する論文を中心にシンポジウムを企画すること、等の提案された。また、ハーグ会議の關係に成人扶養に関するシンポジウムの提案もあつた。この問題は実務家の比較法的考察の必要が感じられ、また、池原教授などに、報告を依頼する事も考へられることになった。

- (4) 新入会員承認の件
東京大学大学院修士課程 後藤 明文氏
" 助手 内藤 研二氏
以上の二氏の入会を承認

- Ⅳ 総会出席者
- | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|
| 畑場 準一 | 池原 季右衛門 | 政 竜 吾 | 岡本 善八 |
| 加藤 金造 | 山上 太郎 | 木 柳 照一 | 越 川 純 吾 |
| 砂川 恵 伸 | 澤 木 敬 郎 | 須 藤 次 郎 | 田 村 精 一 |
| 溜 池 良 夫 | 土 井 輝 生 | 鳥 居 淳 子 | 西 賢 |
| 林 脇 ト シ 子 | 本 浪 幸 市 | 松 岡 博 | 丸 岡 松 雄 |
| 三 浦 正 人 | 山 田 鑠 一 | 田 辺 信 彦 | 後 藤 明 文 |
| 内 藤 研 二 | | | |
- 25名 -

I 研究報告会 (10.00 ~ 12.00, 14.00 ~ 16.00)

- (1) 代理の簿枚法についての考察
報告 東京大学 田辺 信彦
司会 東洋大学 早田 芳郎
- (2) 国際私法における当事者自治の側面
報告 慶応義塾大学 林脇トシ子
司会 神戸大学 西 賢

以上の報告に於いて(1)西、池原、山戸、川上、沢木、梨田、(2)池原、山戸、川上、ユールマンの各氏が質問の意見が述べられた。

II 理事会

- (1) 決算報告承認の件
1971年度の決算報告を承認
なお、De Winter教授への講演謝礼、通訳料、関西への往復旅費は江の基金の利息より75,000円弱を支払った旨が池原兼任理事より報告された。
- (2) 新入会員の件
カヒエ DB 隆 (福岡大学助手), JAMES SAKODA (東京青山法律事務所), 太田秀夫 (中央大学助手) の三氏の入会を承認
- (3) 次期学合開催の件
① 国際法学会国際私法部門の報告に於いて、

早田研究連絡委員より経過報告があった。その内容は、国際法学会では、今秋の学会において、75周年の記念行事を予定しており、その行事としては、記念講演（横田長三郎氏に依頼予定）は明治初期から今に至る国際法学会の発展に関する報告と考之ていること、報告者には若老級の会員とあること、国際私法、国際政治部門でも同様にそれぞれの厂史を扱った報告の考之られていること、国際私法部門に関しては、国際法学会が行った理事に対するアンケート調査において、Mと理事から次のような提案がなされていること、即ち、国際私法学会の発展を、

- ① 第二次世界大戦前、② 第二次世界大戦後、③ 今後の展望の三段階に分け、① 報告者はMと、② 火木場、③ 池原の三氏に報告してもらうことである。

以上の早田委員の報告を基に、種々議論がなされた。結果、国際私法部門も厂史を扱うことにはほぼ意見の一致をみ、Mと理事の提案の通り、大体三期に分けて報告することとした。但し、これについては、戦後と将来の展望とをまとめるもよいという意見もあった。報告者としては、戦前と折茂教授又はMと教授、戦後と岡本教授、山田教授、西教授はという意見があった。最終的決定は研究連絡委員に委ねられた。なお、Mと提案の池原教授は、10月には恐らくハーグ会議本堂の存在であるかという理由で、火木場教授は前回国際私法学会で報告したという理由で辞退の意を表明された。

- ④ 国際私法学会開催について
 - ・ 国際私法学会の10月7日8日9日2日向東大で開催されるので、その周辺9日に東京で開催予定となった。

担当校としては、専任のいる大学の少ないが、専任ではないとしても、学会をやる大学を送るにしようかという意見があり、成蹊大学、専修大学、都立大学等のものが挙げられた。専任のいる大学の当番校としては、慶応大学、中央大学、東京大学であり、慶応大学は須藤教授の子校、中央大学は、今までの会館の使用ができて、東京大学も池原教授が在りての旨いけれども開催不適当ということであった。

- ・ 報告者、報告内容については、個別報告にするとして、西賢教授の内諾を得た。今一人は佐藤幸夫教授に依頼することにした。なお、池原理事より東京の学会ではハーグ会議の報告の考之られし旨の発言があった。

[出席者] Mと、池原、堀池、桑田、山田、早田、西、三津、沢木、畑場、岡本、松岡 (鳥居)

III 総会 (16.00 ~ 16.30)

- (1) 会計報告承認の件
1971年度決算報告を承認
- (2) 新入会員の件
IIの(2)の各氏の入会を承認
- (3) 次期学会開催の件
IIの(3)について池原理事より議決があった。

IV 懇親会

京都社会福祉会館において和やかに開かれた。
同志社大学の両女子会により

V 総会出席者

火木場 淳一	池原 幸雄	欧 竜 雲
岡 本 善八	加藤 冷造	太 田 秀 夫
加 久 昭 隆	Mと 大 郎	河 村 博 文
木 棚 照一	桑 田 三 郎	後 藤 昭 文

第47回総会

1972年10月9日(月)
10.00 ~ 18.00
成蹊大学

1972.10.09
沢木敬郎
田辺信彦
島居淳子
西賢市
本浪章
三浦正人
山本敬三
手林真一

佐藤哲夫
辻-42.サ25
田村精一
内藤研二
早田芳郎
古木睦美
丸岡松雄
信田悦之
山产嘉一

佐藤幸夫
田中徹
溜池良夫
西沢修
林勝子
松岡博
山田鏡一
海老沢美云
畑肇

-39名-

I 研究報告会 (10.00~12.00, 14.00~16.00)

- (1) 船舶証券における国際的裁判管轄約款について
報告者 同志社大学 佐藤幸夫
司会者 成蹊大学 三浦正人
- (2) 三法委員会とイギリス国際私法
報告者 神户大学 西賢
司会者 岡山大学 丸岡松雄

以上の報告について、沢木、溜池、村上、西(1)について、松岡、山田、本浪、早田、村上(2)について、の諸氏より、質問の意見が述べられた。

II 理事会

昼食時を利用して開催

- (1) 新入会員承認の件
東北大学助手 伊藤典史氏(国際私法専攻)の入会承認
- (2) 次期学会開催の件
 - ・時期: 来春の国際法学会に合わせる。
 - ・場所: 東京の大学。候補校としては、慶応、中央、東大、一橋大が挙げられたが、最終決定は、東京の関係者との協議の上、予断に意見が一致。
 - ・報告: 国際法学会の研究連絡委員会から、国際法学会では、

来春の10月大会では、国際経済と国際経済学部会からの
この際、海外投資の統一テーマが採用される可能性が強い
こと、もし統一テーマが不可能な場合は、池田教授の、ハブ
会議の理論を報告に頂きたいという要望があったこと
が述べられ、この国際経済学会での報告も考之併せて国際
経済学会の報告も決められた旨の述べられた。

これに対し、海外投資の統一テーマの報告者としては、沢木、西原
氏が適当であるという意見があった。山本、土井、両氏のこの問題に
すでに取組んでおられるので、国際経済学会では一先、この両氏の
名が挙げられてこのことを報告された。(但し、理論的には海外
投資よりも、国際経済学の統一テーマの方が望ましく、この
際の報告者としては桑田教授が適当であるという意見の方が強
かった。桑田教授は欠席であったが、前日の学合で、国際経済学の
統一テーマと取り上げられるべき提案に居られたことと、この統一
テーマが不可能な場合は、池田教授のハブ会議のこの
報告が、あるいは他の個別報告もするべきとの、この際の報
告者としては、順次として、鳥居、田村氏等の挙げられた。

④ 国際経済学会の報告については、池田教授が国際経済学
で報告されたいときは、池田教授にお願し、その他に報告を希望
する場合は、同様の余裕がある場合は、実務の方から一人の願うこと
という意見があった。池田教授が国際経済学会で報告されたい場
合には、実務の方から一人と、若し一人一人の報告を期待する旨の
意見があった。前者については、田中徹氏、佐藤哲夫氏の名が
挙げられ、後者については、現在修士論文執筆中の後藤昭光氏
の名が挙げられた(後藤氏については指導教官の池田教授の不在
のため、(後藤氏に代わって、この問題と関係する)佐藤氏)。
いずれにせよ、国際経済学会の報告によって左右されたい。同
学会での報告者の決まり次第、関係者で協議すること
した。

理事出席者 久保、川上、瀧池、山田、三浦、西、沢木
早田、柴本場(鳥居) -10名-

なお、成蹊大学より、山田晟、山本尊二両教授が昼食会に出
席され、昼食を理事と共にされた。

III 総会

- ① IIの(1)を承認
- ② IIの(2)について、瀧池常任理事より要約した説明があった
報告は、委員の意見を採られた。特に意見を表明する者はなかった。

IV 総会出席者

柴本場 淳一	五十嵐 清	海老沢 美吉	太田 秀夫
政 龍雪	岡本 善八	加藤 令造	加末 昭隆
川上 太郎	石塚 岩太郎	木棚 照一	後藤 明文
佐藤 章夫	澤木 敬郎	砂川 恵伸	瀧池 良夫
田村 精一	鳥居 淳子	内藤 研二	西 賢
早田 芳郎	畑口 紘	本浪 幸市	松岡 博
丸岡 松雄	三浦 正人	山田 鎮一	後田 操之
古木 睦美	伊藤 典夫		-30名-

1973年5月13日(日)
10:00 ~ 18:00
於 慶応義塾大学

I 研究報告会 (10:00 ~ 12:00, 14:00 ~ 16:00)

(1) 製造物責任訴訟における国際的裁判管轄権の分配について

報告 弁護士 後藤明史
司会 慶応大学 山本敬三

(2) 第12回ハーグ国際私法会議の成果について

報告 東京大学 池田季雄
法務省 田代有嗣
法務省 高桑 昭
司会 西南学院大学 川上太郎

上記の報告について、桑田、山田、松岡、沼田、池田、川上、古木、川上 (1) について、川上、山田、翠田、西本浪、溜池 (2) について、諸氏に於て活発な質疑応答、討論が行われた。

II 総会

- (1) 1972年度決算報告(別紙)を承認
- (2) 新入会員承認の件
次の5氏の入会を承認
牧野 通晃 (弁護士)
草野 多隆 (弁護士)
多喜 寛 (東北大学大学院博士課程)

牧 三平 (一橋大学大学院修士課程)
二宮 正人 (文部省国費留学生 東京大学外国人研究員)

(3) 次期学会開催の件

日時 国際法学会の10月13~14日に開催の予定があり、
- 10月15日(月)を予定している。
場所 京都が望ましい。候補校として立命館大学が挙げられた。

テーマ・報告者 個別報告として、須藤次郎氏に「アジア国際私法」として、河村博文氏に「最近の研究の動向」として、1名報告を依頼(この旨が席上、現勢を代表して池田理より表明された。

(4) 第50回大会記念行事の件

統一テーマで総合的な研究発表をするという方向を検討することとし、細目その他については研究連絡委員に一任することとなった。なお、研究連絡委員会では、5月末会員各位に、この問題についての意見調査をするつもりとした。

III 懇親会

慶応義塾大学の皆君子により会場近くの中華料理レストランにて、大妻和やか(かも豪華な懇親会)もつとむかひ、研究報告会でも十分議論できなかった問題等を中心にあらためて国際私法に関する会話をなされた。

IV 理事会

- 昼食時を利用して開催
- (1) 1972年度決算報告承認の件
会計係とがら必要など、特別会計の更正予定も現在おこなっている確認
- (2) 新入会員承認の件

総会議事(2)の各氏の入会承認

- (3) 1次期学会開催の件
 - ・ 場所としては第一集、立命館大、駄目な場合、京都、大阪のどちらかを選ぶこと決定。
 - ・ 日時は、国際化学会への寄与に決める。
 - ・ 報告は、個新報告とし、候補者には、ブジールから帰された須藤幹雄(ブジール国際私法会202)、最近論文を発表された河村氏が挙げられた。

(4) 第50回大会記念行事の件。
 総会議事(4)のことで決まり、研究連絡委員会が具本筆を練りこむ費用等と学会会計よりあることの手承を得た。

(5) 国際化学会への国際私法部会報告者の件。
 国際私法には統一テーマかブジール国際私法、外史かこれにかかわる予定であり、そのテーマは海洋問題である旨の研究連絡委から報告された。国際私法もこの統一テーマを参考に検討し、この議論され、海事国際私法としてM又が報告に報告を依頼してはどうかという意見がかなりの賛成と得た。個新報告の場合には、順序から言って、M又、鳥居の両氏の名が挙げられた。

(6) 理事交代、理事後送任の件。
 M又理事より、老令になった理事は若い人と交代した方がよい旨の意見が述べられ、国際化学会への例を参考に決まるとして、M又理事は理事を退任する旨の発言があった。これに対し、池原、溜池、桑田理事らにより、理事として学会に留まっていきたい旨が表明され、これに対し圧倒的多数の賛成が示された。
 M又、山田、桑田、理事より、理事を後送任する旨の意見が述べられ、理事を後送任により送任してはどうかという提案もなされた。
 結局、現理事はそのまま留任の上、新理事の補充、理事後

送るの由題は合計審議するつもりだ。
 [現事会出席者]

M又、池原、溜池、桑田、西、早田、畑場、沢木、須藤

V 総会出席者

畑場 準一	太田 秀夫	池原 泰雄	伊藤 典夫
政 竜雲	岡本 善八	M又 良也	加未 昭隆
加藤 令造	M又 太郎	木村 照一	久保 岩太郎
松藤 明史	河村 博文	佐藤 孝夫	沢木 敬一郎
須藤 次郎	佐藤 信太郎	溜池 良夫	桑田 三郎
関口 晃	須原 徹郎	高桑 昭	鳥居 信子
田代 有嗣	田辺 信孝	内藤 研二	西 賢
二宮 正人	草野 多隆	多喜 寛	早田 芳郎
林 脚トシ子	古木 睦美	本浪 章市	松岡 博
丸岡 松雄	三井 哲夫	山田 鎌一	山本 敬三
渡辺 惺之	牧 三平	牧野 通晃	

第49回
1973秋

第49回総会

1973年10月15日(月)
10.00 ~ 18.00
於 立命館大学夜笠学舎

I 研究報告会 (10.00 ~ 12.00, 14.00 ~ 16.00)

(1) 扶養義務の準拠法に関するハーグ国際私法会議特別
委員会の審議の結果

報告 東京大学 池田季太郎
司会 西南学院大学 村上太郎

(2) 外国会社の権利享有の範囲

報告 北九州大学 河村博文
司会 北海道大学 五十嵐 靖

以上の報告について、西、松岡、山田、沢木、鳥居、村脇、村上
(1)について、西、後藤、山田、沢木(2)について)の諸氏より質問および
意見が述べられた。

II 総会

(1) 新入会員承認の件

次の2氏の入会を承認

曾野 和明 (北海道大学教授)

増田 芳子 (名古屋大学大学院修士課程)

(2) 次期年会開催の件 (理事会の結果の報告)

i) 50回大会記念行事として、2日間にわたる大会を開く。

ii) 統一テーマとして、国際私法の改正問題をとりあげ、
1960年以降の各国の改正の動向、改正案、改正法
を、法例の改正の問題との対比の上で検討する。

研究連絡委員と山田裕操とが名大で8月17日に開いた

準備会ではほぼ次のようなプログラムが定められた。

テーマ 「各国国際私法の改正」(仮称)

① 国際私法の改正問題の一般論報告

② 日本の国際私法の改正

③ 外国の国際私法の改正

ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ東欧、その他(スイス)

④ 改正にあたっての問題点

例として、属人法の決定基準、管轄権と準拠法、外国判
決の承認・執行、両法平等、改正の方法等

⑤ 今後の改正の方向と課題

iii) 場所 名古屋大学

iv) 日時 国際法学会との関係をもて決める。

v) 資料の収集につき、会員の協力を求める。

資料は印刷し、実費にて会員に配布する。

vi) 大会の費用は特別会計基金より支出する。

III 懇親会

立命館大学の諸好意により盛会裡に懇親の実とありました。

IV 理事会

(1) 総会議事(1)を承認

(2) 総会議事(2)について話し合われた。

なお、報告者は未だ最終的には決まらなかったが、大體、

① 村上、② 山田 ③ ドイツ 松岡、フランス 早田、イギリス

アメリカ 松岡、東欧 政、その他(スイス、イタリヤ) 村脇

司会 曾野 溜池、副 沢木 ⑤ 司会者又は村上 司会 10月15日

の各氏が予定されている。

また資料の編集には早田鳥居のあたるとなった。

(3) 傍聴者の件

会員の紹介状をとり、常務理事(いおれも可)の許可を得ること。

第50回大会

(4) 理事の補充・理事を送出

次回の学合において、理事会を召集し、欠席の場合には委任状の提出を求めた上でこの問題を討議する。

理事会も2日間にわたって閉く。

(5) 退会者……過去数年間の欠(返事の有無)等から判断する。理事会の報告事項

出席者: 本学大理事会のため、川上、池宗、瀧池の3理事の他、西、沢木、火和場、早田、木柳(鳥居)が出席した。

V 学合出席者

火和場 準一	五十嵐 清	池宗 季雄	伊藤 典夫
海老沢 美六	岡本 善八	欧 龍 雲	太田 秀夫
川上 太郎	河村 博文	木柳 照一	後藤 明史
沢木 敬郎	砂川 恵伸	関口 晃	瀧池 良夫
鳥居 淳子	二宮 正人	西 賢	林 脩子
早田 芳郎	平林 真一	本浪 章市	牧 三平
松岡 博	山田 鐘一	横関 昇	沼田 愷之
増田 芽子	曾根 和明	高 桑 昭	

- 31名 -

1974年 5月13日(月)・14日(火)
於 名古屋大学 豊田講堂 会議室

- 今回は学合創立25周年、50回を記念し、創立以来はじめての、2日間にわたる大会を開催した。参加者もオブザーバーを含めて、50名と最多数を記録した。
- 大会に先立ち、事務局において、「国際私法の法典化」に関する資料集(1)(2)および「司文献目録」を作成し、会員の希望者に配布した。
- 長年の懸案であった新理事を送出の記念すべき大会において、はたされたことも特記すべきである。

I 研究報告会

テーマ 国際私法改正の諸問題

司会	5月13日	東京大学	池宗 季雄
司会	5月14日	大阪大学	三浦 正人

(一) 国際私法の改正一般
西南学院大学 川上 太郎

(二) 日本の国際私法の改正
名古屋大学 山田 鐘一

(三) 外国の国際私法の改正

ドイツ	中央大学	桑田 三郎
フランス	東洋大学	早田 芳郎
スイス	一橋大学	火和場 準一
イギリス	神戸大学	西 賢

以上 5月13日

アメリカ合衆国	大阪大学	松岡 博
東欧諸国	北海道大学	欧 龍 雲

以上の諸報告につき、簡易な質問がなされたのち、シンポジウムに入った。

(10) シンポジウム

司会 京都大学 溜池良夫
" 立教大学 澤木敬郎

(一) ~ (三) の報告を基にして、シンポジウムテーマとして
司会者から、次の項目が、一応の基準として示され、それによ
って討議を進められた。

- (1) 国際私法立法の方法
改正を必要とする条件の存在、改正の手続き、方法、
改正事項の範囲、
統一条約(IPR)との関係、立憲化の必要性
どの様な方法による改正が妥当か。
- (2) 両性平等
婚姻の効果とめぐって。
- (3) 養子縁組の成立要件
- (4) 外国身分判決の承認
- (5) その他

時間の関係上、(1) (2) の問題がとり上げられ、右結果
となったが、それぞれにつき法学的意見が述べられた。

- 1) については、
 - ・ 法制改正が企画された理由につき田村教授からの質問が
あり、これに、山田教授、法務省 札幌田参事官等が回答が
なされ、ついで、各国の改正の背景についても各報告者から説明
がなされた。
 - ・ 改正の予続^{予行}について、立法の影響を及ぼすような団体その他の
存在について、日本、ドイツ等につき、山田、木村、五十嵐、M.L.
の諸氏の発言があった。
 - ・ 国際私法の統一に関し、南北問題をどう考えるかという
問題提起がM.A.氏によりなされこれに関し、コルマン、西、

山田、早田の諸氏から、各国の例、実務上の慣行等が説明
された。文化の類似性と異文化の問題がコースアツツとされ
全体の統一、と二国間での統一^{統一}による統一の方法が論じ
られた。

このあと、10分を休憩の後、各論の国別問題の討議に移ら
れた。

(2) に関し、林脇氏より、IPR上の夫の本国法と優先にも両性平等
に及ばざるの発言があり、これに鳥居氏から反論、これに関連して
五十嵐、森田、溜池の諸氏の発言があった。またM.A.氏より、
拒絶法上の policy making に関連して、Product liability
の例があげられ、議論は、拒絶法上の policy の決定の問題
に移って、子供の保護と両性平等、家族の法律関係の準
拠法の統一といった各 policy をいかに調和させるかの論じ
られた。また、管轄と準拠法について、木村、早田氏の発言
(婚姻事件における) があった。

(五) 結び 京都大学 溜池良夫

II 理事会 5月13日 16:00 ~ 18:00 豊田講堂会議室

- 1 決算報告の件 出席者 M.L. 池家、溜池、桑田、山田、西、
本原、三浦、早田、沢木、火和場(島)
- 1973年分決算報告を承認
- 2 会費徴収方法の変更の件、
従来の、前回/回令に限って組って徴収する方法を改
め、今回以降の未払令すべて徴収する事に決定。
これにより、会費値上げを避けて、収入の増減を1はかる事
となった。
- 3. 学舎南催に関する費用の件、
山田理事より今回の費用についての説明があり、今回は壽
院等により肩がけたが、今後、高専校に過大な負担をかける
ことには問題がある旨の指摘があった。

これに関連し種々の意見が出されたが、結局以下の案が了承された。

- 当番校に謝礼は出さないが、会場費、人件費等の必要経費は学会に請求して貰う。
- 茶菓等のサービスは必要最小限にとどめる。
- 但し、当番校の好意は素直に受ける。

4. 新入会員承認の件

以下の八氏の入会を承認

石黒一憲	東京大学助手
石橋敏郎	西南学院大学大学院修士課程
大橋真喜子	名古屋大学大学院修士課程
川崎金司	大阪大学大学院修士課程
清水幸雄	日本大学
永田誠	司法修習生
矢吹徹雄	弁護士 北海道大学大学院修士課程
山内惟介	東京大学助手

5. 新理事補充の件

理事会により次の諸氏を新理事に推薦

中場淳一	澤木敬太郎	西賢
早田芳郎	本浪章市	三浦西人

6. 新理事長選任の件

理事の互選により池原季雄理事を理事長に選任。

従来の上務理事を解任

7. 次期学会の件

- (1) 日時 国際法学会の10月12日(土)13日(日)に開かれるので、10月14日(月)に予定する。
- (2) 場所 東京。当番校の口では、中央大で可能かどうか桑田総務に検討して頂く

(3) テー2・報告者

多喜氏、梅田氏の名があげられた(個別報告として)。また、これとは別に、明14日のシンポジ-4の結果いかんでは、今回このテー2を逃すものを取り上げるとも提案された。なお、学会の意見を研究連絡委に反映させるべく、アンケートをとるとも考えられたが、この案は、学会より口頭で研究連絡委に伝えていることとし。

国際法学会の研究連絡委を(改定) (中場、本棚、早田、丸田) 及び同学会の次期テー2につき報告がなされた。

統一テー2: 七命
IPR部会……統一テー2に参加せず、個別報告とする。この案をIPR部会で検討する。

IPR学会としては、できる限り、統一テー2に参加の方向で今後検討することとし。

(4) Wengler 総務委員の件

研究連絡委 中場氏より、Wengler 総務委員の来日の際、秋の国際法学会で通訳つき1時間位の講演の依頼が考えられている旨の報告があった。テー2は可能ならば「政治七命」について依頼し、その日は1日目の予定。その他のテー2ならば1月2日目の予定とのことで、IPR学会でも講演を依頼したいというが、但し、定年退職後の来日もあつて、余り負担にならない程度でお願いする旨の発言が桑田理事よりあった。これに基づいて、Wengler 総務委員の希望を聞いて、通訳つき1時間位の講演か、あるいは懇親会のスピーチをして頂くことを理事の意向で「できれば英語で」(ほぼ一語)とし。

III 総会

1. 理事会議事 1, 2, 4. と報告. 新入会員を紹介.
2. 推薦された新理事も総会で承認.
3. 新理事の選任を報告.
4. 次期学会予定を報告.
テーマ報告者に関する意見を研究連絡委に述べることを依頼.

IV 懇親会

名古屋大学取員会館で和やかな懇親会が開かれた。名古屋大学から法字部を代理として寺本評議員が挨拶をされ、これに最年少理事の川上教授が答礼をされた(新理事は所用が欠席)。新入会員も殆んど出席して、旧会員との同の親睦が図られ有意義であった。

V 大会出席者

沢場 孝一	五十嵐 清	池原 春雄	岩崎 柏
海老沢 美云	政巻 雪	太田 秀夫	岡本 善八
加来 昭隆	川上 太郎	川又 良也	河村 博文
木棚 照一	桑田 三郎	越川 純吉	ワグネル
澤木 敬郎	砂川 恵伸	多喜 寛	田辺 信彦
田村 精一	溜地 良夫	鳥居 淳子	西 賢
西沢 修	二宮 正人	林脇 トシ子	早田 茅郎
本浪 章市	牧野 通晃	増田 茅子	松岡 博
丸岡 松雄	三浦 正人	山田 鎌一	山本 敬之
渡辺 悦之	平林 真一	石里 一憲	大橋 喜喜子
石橋 敏郎	川崎 金司	清水 幸雄	永田 誠
矢吹 徹雄	山内 推介	ワグネル、テルク(泉 信雄)	
(根柢 田泰 且助)	井上 祥子		

*51回

1974年秋

*51回 総会

1974年 10月 14日(月)

10:00 ~ 19:00

於 中央大学会館

I 研究報告会 (10:00~12:00, 13:30~15:30)

(1) 国際私法における増外子

報告 東北大学 多喜 寛氏

司会 東洋大学 早田 茅郎氏

(2) イギリス国際私法における夫婦財産制

報告 岡山大学 丸岡 松雄氏

司会 神戸大学 西 賢氏

以上の報告について、川上、池原、沢木、五十嵐、西、丸岡、志多、鳥居、中村(1)について、志多、五十嵐、木棚、鳥居、本浪、曾野、山田(2)について、諸氏より、質問や意見が述べられた。

II 理事会

出席者 池原、折茂、山田、川上、桑田

西、本浪、早田、沢場、沢木

三浦。(鳥居)

昼食時を利用して開催

(1) Wengler 教授の件

今回の講演に対する謝礼として江川基金より100ドルを支払う旨の提案が理事長よりあり、これを承認。

(2) 新入会員

横山 潤 一橋大学大学院修士課程

角田 由記子 司法修習生

江泉 茅信 早稲田大学大学院博士課程

以上の三氏の入会を承認

(3) 次期学会の件

- ・開催校：東京大学か一橋大学かにお任せする。炊場理事より、一橋大学で引受けるとよいとの申し出あり。
- ・時期：国際法学会が5月10日(土)に開かれるので、5月11日(日)か5月9日(金)に開く。
- ・報告者：個別報告とし、2人の報告者を予定。その候補者として、加来氏、梅田氏、田村氏の名が挙がった。
- ・なお、国際法学会の国際私法部会の報告者としては鳥居氏が候補として挙げられた。秋の部会では流-テーマ国際法構との関係で、^{鳥居氏候補}。
- ・来秋の学会は、国際法学会が九州の西南学院大学で開かれる予定であるので、国際私法学会は福岡大学に依頼できるといふので、加来氏にたずねるといふこと。この際、の時期は、国際法学会が10月24日~25日の予定であるので、同学会理事会の開催と同日中に(前日は水)開いて頂くよう申し入れをして、お返しに入れられた場合は10月23日に開くこととする。報告者は未定。

(4) 会費徴収の件

- ・事務局より、どこの期で徴収できるかを再検討してほしいとの要望があり、3年毎(6回分、3000円)までとするに決まる。ただし、これは、理事会内部の取決めとする。
- ・なお、三年以上、香沙汰のないうちは、特別の事情のない限り、自然脱会とすることに決定。(出欠の返事もなし)
- ・会費納入を容易にするため、振替口座を開設する。

III 総会

- (1) 新入会員紹介の件
理事会議事(2)の三氏を紹介
- (2) 次期学会の件
理事会議事(3)と報告

IV Wengler教授特別講演

"The function of private international law" のテーマの下に、約1時間ばかり、国際私法とequityの問題を中心に、英語で講演された。この講演は中央大学との共催であったので、中央大学の関係者も聴講した。

V 懇親会

中央大学の池女子意により、中央大学近くの主婦の友会館で開宴会場にて、Wengler教授夫妻のレセプションパーティも兼ねて、盛大にかつ和やかな開かれた。中央大学からは戸田修三学長も出席され、挨拶をされた。Wengler教授も感謝の言葉を述べられ、ヨーロッパで特に日本語におおする関心の高まっていることから、これに関する文献や情報を得たい旨を丁寧に附言された。

いつものように、研究報告会で十分議論し得なかった論点につき、(特に若い会員と中堅層との間)討議が行われている様子があり、こめられた。

IV 総会出席者

炊場 淳一	五十嵐 清	池田 文雄	池原 季雄
石黒 一憲	伊藤 典夫	海老沢 美広	政 竜 雲
岡本 善八	太田 秀夫	岩 崎 柏	大橋 真喜子
折 茂 豊	加来 昭隆	川上 太郎	長 多川 尊典
桑田 三郎	後藤 明史	梅田 嘉章	佐藤 哲史
澤木 敬郎	清水 幸雄	砂川 恵伸	曾 野 和 明
高 桑 昭子	多 喜 寛	田村 精一	土 井 輝 生
鳥 居 淳 子	永 田 誠	酒池 良史	中 村 武
西 賢 真	二 宮 正 人	林 脚 トシ子	早 田 芳 郎
平 塚 真	本 浪 章 市	牧 三 平	丸 岡 松 雄

三浦正人 知吹徹雄 山内惟介 山田金麿
 山本敬三 横関昇 西沢修 沼辺愷之
 木棚照一 角田由紀子 江泉芳信 横山潤
 - 52名 -

第52回
 1975年春

第52回総会

1975春

1975年5月25日
 10:00 ~ 16:30
 於 - 橋大学礎研研究館

I 研究報告会 (10:00 ~ 12:00, 14:00 ~ 16:30)

(1) ドイツ国際私法理論の新潮流について
 報告者 京都大学 桜田嘉章
 司会 関西学院大学 田村精一

(2) 契約外債務の準拠法
 — EC条約草案を中心にして —
 報告者 福岡大学 加来昭隆
 司会 西南学院大学 m上太郎

(1)(2) につきこれと水次の各氏との話し合いは質疑応答あり
 林勝也, 山本, 山田, 政, 木棚, 菅野 (1)のとき
 西, 菅野, 本浪, m上, 五十嵐, 沢木 (2)のとき

II 理事会

定例会を利用し開催 出席者: m上, 山田, 三浦, 早田, 本浪, 西, 沢木, 矢野場 (遠征)
 (今回は東大2期生池田昭彦欠席のため山田氏が代理理事代行職務あり)

1. 新入会員の件
 岡村 堯 西南学院大学教授
 鈴木 五十二 弁護士
 Miyazaki Mitsumasa 京都大学大学院 (アイルランドからの留学生)
 以上 三氏の入会を承認

2. 1974年決算報告承認の件
 1974年通常会計の部と特別会計の部についての決算報告を承認。会計納入の各の振替口座開設の報告あり。

3. 次期総会9件

時期：国際法学会は10月24、25の両日に決定(21初
で、できれば10月26日にしたい。(しかし、多摩校におい
て日曜の開催不可の場合には10月23日とする)

場所：福岡大学。
(なお、国際法学会は西南学院決定)

報告：遠隔の地で開催されることから、シンポジ-4等より、
個別報告の方が良いという意見が強く、この方針
で決定。報告者としては、若い人1名、ウエディング
1名の望まじい以前の候補者といはる橋(九州
大学大学院博士課程)山内(東京大学助手)
杉江(成蹊大学大学院博士課程)の名が
挙げられ、後者としては田村、砂川の両氏の名
が挙げられた。

4. 外国実習法[邦語]文献目録9件

各大学の大橋氏が集めた文献カードを中心として、東京大学
外国語文献センターの山内氏の協力を得て作成された文献
目録が山田理事より提案され、この総会で会員の承認を
配布すること、~~これ~~、これを基ににより充実した内容にすべく会
員の協力を求めること、新らしい、よりよい文献目録作成の旨の
趣意として、田村、山内、石黒の両氏を関西のオカ、梅田、
大橋の両氏を推せんす旨の提案があり、承認された。

5. 竹内昭夫、小西祐子会員の退会申出を承認

III 総会

1. 1974年度決算報告を承認

2. 理事会で承認された新入会員を紹介

3. 次期総会については、理事会議事を報告
(報告者については、今後個別に報告する)

4. 外国実習法[邦語]文献目録9件

出席者全員に目録の配布と、山田理事を代行より
説明がなされた。五十嵐氏より、所蔵のカードの中から関係部
合ととりおし協力する旨の発言あり、又、沢木氏より、家裁の調
停審判の際に依頼され、翻訳した外に法令ありとの発言も
あり、会員の協力を得ること、可能な見込である。新らしい
目録編集の旨の趣意として、梅田、石黒、大橋の三氏の承認
を得た。山内氏は総会には欠席であった。

IV

出席者

- | | | | |
|--------|-------------|--------|---------|
| 火永場 淳一 | 五十嵐 清 | 海老沢 美六 | 政 龍 豊 |
| 岡本 善八 | 岡村 亮 | 大橋 真喜子 | 川上 太郎 |
| カ味 昭隆 | 梅田 嘉孝 | 佐藤 哲夫 | 沢木 敬郎 |
| 清水 幸雄 | 鈴木 五三 | 砂川 恵伸 | 菅野 和明 |
| 多喜 寛 | 田中 徹 | 田辺 信孝 | 田村 精一 |
| 鳥居 淳子 | 西 賢 | 二宮 正人 | 石黒 三喜 |
| 江泉 芽信 | 関口 晃 | 高桑 昭 | 長 劍 理 衛 |
| 林 陽子 | 早田 芳郎 | 本波 亨市 | 牧 三 平 |
| 三浦 正人 | M. MIYAZAKI | 矢吹 徹雄 | 山内 惟介 |
| 山田 鏡一 | 山本 敬三 | 横山 潤 | 渡辺 愷之 |
| 木柳 照一 | | | |

第53回
1975年秋

第53回総会

1975年10月26日(日)
10:00 ~ 18:00
於 福岡大学図書館研究室

I 研究報告会 (10:00 ~ 12:00, 14:00 ~ 16:00)

(1) 有体動産国際売買統一法の適用について
報告 成蹊大学 杉江 徹
司会 岡山大学 丸岡 松石

(2) 外国養子 決定の承認
報告 岐阜地裁 海老沢 美六
司会 大阪市大 三浦 正人

(1) について 沢木 谷川 池原 曾野

(2) について

II 理事会 (12:00 ~ 14:00)

1. 新入会員の件

杉江 徹 成蹊大学大学院博士課程
尾崎 正利 関西大学

以上 二氏の入会を承認

2. 次期学会の件

(1) 国際法学会は来春5月22日(土)に大阪市大で開催予定であるが、1日の大会で国際私法部会はない。且、以上、理事、高桑会員等より、私法学会との関係を密に欲しいとの要望が出されているが、来春は私法学会

開かれたい。従って、一応 独自に時期場所等を定めることは可能であるが、国際法学会の理事、評議員等を兼ねる会員も多いので、できれば、国際法学会の前後に開くことか望ましい。

以上のような真に、この件は落ち着いたが、これと関連して、理事長より、Reese教授の訪日の件について次の問題が出された。Reese教授は来春5月か8月に来日の予定であるが、5月に来日される場合は、学会で講演会を用いてはどうか、この際経済的側面は別であるが、国際私法学会のHostとして、教授をお招きするということもどうか、場所は京都かよいと思ふ。これに対し、出席者は全員賛成。但し、8月に来日の場合は、別個のスケジュールで講演会等を予定することとし、今後この真に關しては理事長に一任することとした。

(2) 報告者、報告内容について

Reese教授の講演等が春の学会で行われる場合は

- a. 個別報告 1 と教授の講演
- b. 来春のハーグ会議のテーマ(婚姻の締結、代理、夫婦財産制)ととり上げ、これと、Reese教授の講演(教授は夫婦財産制の部のChairman)

の組合せが考えられ、Reese教授の講演のない場合には

- c. 個別報告 2 とハーグ会議のテーマ
- d. ハーグ会議のテーマのみ
- e. 個別報告のみ

が考えられるが、可能はなお流動的であるので、今後の進行状況に合わせてプログラムを決定することとする。

その他、報告時間の短縮等により、討論の時間を増やす必要があり、山田理事から発言があり、以上理事からは、お互いに自由な発言を可能にするべく、会員どうしが親密にならなければならないの発言があった。尚、個別報告の場合の

候補者として一橋大大学院 牧三平氏と東京大言外
国語文献センターの山内惟介氏の名前が挙げられた。

山内惟介 山本敬三 横山潤 杉江敏
尾崎正利 村田嘉彦 鳥居淳子 丸岡松雄
- 32名 -

II 理事会出席者 池原, m上, 溜池, 山田,
早田, 本浪, 三浦, 沢木, (鳥居) - 9名 -

III 総会

- 1 新入会員の件.
理事会議事 1の2段を紹介
- 2 次期会合の件.
理事会議事 (1)及び Reese教授訪日の方の理事長
より報告された。また、報告のあり方等について、意見や希望を
研究連絡委員に述べて分ける旨の理事長より述べられ、これ
に対し、常務会等から、報告内容の短縮を以て討論内容に改
くしてほしい旨の要望が出された。
この中m上理事の発表は外国留学等についてはなく不在であった
会等々の自己紹介が改められた。

IV 懇親会

福岡大言の好意で、総会会場隣室において、和やかな
交歓が行われた。

V 大会出席者

畑場 博一	五十嵐 清	池原 季雄	石黒 一寛
江泉 芳信	瀬原 徹郎	海老沢 美広	岡村 亮
加久 昭隆	m上 太郎	木村 照一	佐藤 幸夫
須藤 次郎	関口 晃	曾野 和明	多喜 寛
谷川 久	溜池 良夫	田村 精一	早田 芳郎
本浪 亨市	三浦 正人	宮崎 克正	山田 鏡一

第54回
1976 春

第54回総会

1976年5月23日(日)
10:00 ~ 18:00
京都大学紫友会館

I 研究報告会 (10:15 ~ 12:15, 14:00 ~ 15:30)

(1) 国際私法における子便宜措置の問題
— アメリカ判例を中心に —

報告 東京大学 山内 惟介
司会 一橋大学 柴場 博一

(2) 海外親子関係不存在確認の準拠法決定に関して

報告 一橋大学 牧 三平
司会 関西学院大学 田村 精一

以上の二報告につき、(1)については池原、政、川又、越中、山田、佐藤(孝) 梨内 等の諸氏から質問、議論が繰り出され、活発な討論が展開された。(2)については、報告が簡潔で難解であったせいから、多少の議論が繰り出されたといえるが、梨内、政、田中、海老沢の諸氏により質問、意見の表明がなされた。

II 理事会 (12:15 ~ 14:00)

昼食事を利用し開催。出席者 池原、渡池、梨内、山田、三津、本根、早田、柴場(鳥居)

1. 会計報告の件

1975年度の会計報告を承認
会計担当の鳥居より金額をいっまで進めて繰り出すことにつき、一応 第54回分(計3000円)までという取り

会内部での取決があるが、この取決が有効かどうかにつき疑問あり。これに反して、この取決を有効と確認。現在、新しい繰り上げ方法採用後、5回目にあたり、次回が6回目となるので、問題が一層複雑化するが、第54回からである。この件員において、3000円以上の滞納者につき、どのような取扱いをするかにつき、梨内、渡池から、資金通知の発送を、金額納入まで停止するのではないかという提案がなされた。この案については、今後の理事会で継続審議をする事に決定。

2. 新入会員の件

笹原 俊 宏氏 中央大学大学院博士課程
沢田 恵子氏 名古屋大学 外国人留学生(フジシ、サンパウロ大学法学部卒)

以上の二氏の入会を承認。

3. 役員改選の件

今回は理事改選の時期であるが、改選不況のため、秋に持越し

4. Japan Annual 24号の件 ^{15号×45(頁) 6頁} ^{×7 11月30日}

当季会の執筆がある者になつていながら、原稿を提出しないという協賛。提出するに決定。執筆者については、過去の執筆者を調査の上、現存者が適当な人に依頼するに決定。

5. Reese 教授来日の件

理事より、Reese 教授来日の件につき、次のような報告あり。

- a. 来日時期 今 8月29日 ~ 9月11日 or 12日
 - b. 来日費用 Japan Foundation の基金以外
 - c. 来日中の講演 又は スタッフセミナーの回数をい
- テーマ (i) Restatement 2nd について

- (ii) Product liability に関するハーグ条約について
- (iii) アメリカ合衆国と国際私法の統一について
- (i) 及び (ii) についてはすでに Reese 教授の承諾あり
- (iii) については論議をどうにおくかを教授が検討中。

以上の Reese 教授の承諾の件につき、理を乞ふ。

- a. 国際私法学会の名前で招くこと(このこと事後承諾を得たい。
- b. 滞り費用は、前記の如く Japan Foundation からおされたい。講演費用は、これには含まれないので、江川基金から若干支出することを承認してほしい。

の一事の承認をおめられ、いづれも承認。なお、講演等については、(i) を京都で(初)(ii) を東京の某名家にも含めた会(大学の外の場外)に「国際私法研究会など」で、(iii) を東京大学で、おめられたり予定とした。

6 次期学会の件

時期: 国際法学会の 10月17日(日) 18日(月) 京大で開かれその日、10月19日(火) に一応決定

場所: 候補から行けば「東京大学」の場である。この時期には、池原教授がハーグ会議に出席の場不在であるので、今迄ハーグも関係依頼をしたことのない都立大学に依頼することに決する。

報告者、テーマについて: 五十嵐教授より、北海道大学大学院の矢吹(飯田)氏から「国際裁判管轄権についての論議」というテーマで報告をされることか推薦されている。この、個別報告な

らば、矢吹氏を第一候補とす。その他は、江川、二宮の両氏の名が挙げられたが、個別報告の場合のもう一人の報告者については今後検討。

国際法学会国際私法部会の報告について

国際法学会の研究連絡委員の早田、竹場両氏より、次のような報告あり。

国際法学会の次のテーマ……統一テーマで「EC」の二日間の大会とすべしとの統一テーマにありたい。1冊は個別報告にするとも検討中。統一テーマは国際私法部会が考案するべきかを決めてほしい。参加する場合の報告者としては、1冊者からすれば、田村精一氏であり、彼は、このテーマでは参加できない意向を述べている。

これに対し、参加することに賛成多数。報告者としては、このテーマに関連した研究を行っている木村、西村、加久氏の名前が挙げられた。この点についても今後具体的な検討を関係者でかゝり、決定することになった。

7. 江川前理事長の追悼会について

池原理事をより、国際私法学会固有の問題ではなかつたという前置きの下、江川前理事長が亡くなされて10年になるので、11月(8月21)より5月遅れた9月21日のあ、級岸の場に追悼会を開くことか関係者の間で話し合われていたが、国際私法学会も、その Host の一人としてかゝるべきかどうかを検討してほしいが述べられ、かゝることには賛成。なお、理を乞ふは、参考(2)として、横田三郎先生の満洲才のお説は、関係諸大学、外務省の合同にて、お説いの行なうることになっていると報告された。

III 総会

1. 理事会議事の1の承認
2. 新入会員の紹介
理事会議事の2で承認された、笠原、津田両氏を紹介
3. Reese 教授来りの件
理事会議事 5 について理事より報告があり、会員の協力が必要とされた。
4. 次期学会の件
 - o 理事会議事 6 の次期、及び場所についての報告がなされ、都立大の長谷川教授より、国際化の担当の関口教授と相談の上、極力都立大の開催に協力する旨の発言があった。報告予定者については、理事より、矢吹氏の名のみが挙げられた。
 - o 国際法学会の国際私法部会については、ECに国際統一テキストに参加する予定であり、並行して個別報告を行なうことも可能であるので、今後、研究連絡委員と検討する旨の報告あり。

IV 懇親会

研究報告会・総会の開かれた部屋で、立食形式に於て懇親会が和やかにもたれた。

V 総会出席者

火永場 準一	池原 春雄	石黒 一憲	江泉 芳信
海老伏 美広	政 竜 雲	岡本 善八	大橋 真喜子
川上 太郎	川又 良也	笠原 信彦	加来 昭隆

河村 博文
越川 純吉
清水 幸雄
清野 和明
田村 精一
早田 芳郎
丸岡 松雄
山田 鏢一
~~横山 潤~~

長谷川 肇典
佐藤 哲夫
砂川 忠伸
多喜 寛
鳥居 淳子
平林 真一
松 三平
山本 敬三
横山 潤

木村 照一
佐藤 幸夫
杉江 徹
田中 徹
二宮 正人
津田 恵子
Miyazaki Mitsumasa
矢吹 徹雄

桑田 三郎
梅田 嘉次郎
須藤 良夫
瀧池 良子
能見 良子
本浪 亨市
三浦 正人
山内 権介

-45名-

第55回
1976.秋

第55回総会

1976年10月19日(火)

10:00 ~ 19:00

東京都立大学日野校舎A棟大会議室

(懇親会は東京青山会館)

I 研究報告会 (10:00~12:00, 14:00~16:00)

(1) 国際裁判管轄権についての合意

報告 弁護士 矢吹徹雄氏

司会 立教大学 沢木敬郎氏

(2) アリカ合衆国における裁判管轄に関するフォーラム・ノンコンヴェニエンスの法理

報告 早稲田大学 江泉芳信氏

司会 大阪市立大学 三浦正人氏

以上の二報告につき、(1)については、林脇、区又、川又、松岡の各氏より質問があり、活発な討論が行われ、(2)については、松岡、後藤、三浦、沢木の各氏より質問があり、同様に活発な討論が行われた。

II. 理事会

出席者 山田、川上、沼池、三浦、西、

本浪、沢木、坪場 (鳥居)

池原理事長が「ハーフ」国際私法会議に出席のため不在であったので、沼池理事長が理事長代行として議事を進めた。

1. 新入会員承認の件

杉山善尚(おひさ)氏 日本大学講師、民法・著作権法、ドイツ法専攻

矢吹 昇治氏 東北大学大学院、国際私法専攻
加藤 厚氏 名古屋大学大学院、
の三氏の入会を承認。

2. 次期学会開催の件

時期: 国際私法学会の翌日の予定、但し、国際私法学会の期日が未定なので、同学会の決定を待って決める。5月中旬となる可能性が強い。

場所: 11回番から行けば「東大」となるが、池原理事長帰国後、具体的に決定する。

報告者: 一つは、「ハーフ」会議の後の国際私法学会では、会議への出席者から会議について報告して貰うという慣例になっているので、来春もこの慣例に従い、もう一つは、経解委員から「グローバル新国際私法(法律と行政)の翻訳を完成させたらしいので、二宮委員と共同で、それについて報告をして貰うという案が出され、皆それ賛成。候補者と交渉する」とする。

国際私法学会の国際私法部会の報告について審議して、沼池理事長(前国際法学会研究連絡委員会委員)の発言があり、その案について審議。坪場理事長によれば、国際私法学会では、来春には「ハーフ」大会で、国際私法部門と国際私法部門の研究報告を予定している。統一テーマにするならば、海洋法か多国籍企業等から選ばれるべきか、統一テーマにするか、個別報告にするかは未定とある。そこで、個別報告の場合の候補者を一応考えておくことになり、事務局の資料に基づき、国際私法学会で未報告者として、田村、石川の再会員の名が挙がった。但し、

田村会員は、学内事情から、来春は不可能という
事情を判断した。結局、副川会員が候補者
となる。また、3a地にて、共同報告のみで個別報告を
揃はすという会員もいる。本会副会長の名も考へられた。

3. 若手会からの提案の案件。

若手会の木村祐司の両会員から理事会で次の件
について審議された。審議の結果、両会
員から説明を受けた。審議の結果、西氏の説
明によれば、若手会では、外国実習生に関する文献目
録の作成を決定した。その案は次の通り
である。

- 1) 主として、外国の実習生に関する邦語文献目録
の作成。
- 2) 一年後に完成の予定。
- 3) 作業については、若手会が細目から1/3に決めた。
- 4) 300部位発行して、比較協会、私学協会等に
配布の予定。
- 5) 総額 30万位の予算。

この件について、理事会で検討した。これは、次の通り。

- 1) 学会員へのカンパの呼びかけについて。(カンパ
については、講入予約でもよい)。カンパの場合、
若手1000円、中堅 2000円、理事3000円、
を予定している。このようにカンパを予定している。
- 2) 日独協会、日仏協会にも、同様に援助を
申し入れをしよう。
- 3) 永続的に今後作業を継続する場合、出版社へ
御礼のかけをしよう。
- 4) 学会から支給して、作業開始に必要な6万円
位を支出する。この点については、

理事会では、未だ、この程度で済む。この程度の確定性
が実現して、まだ不明な点については、外部に御礼のかけを
しようかと判断。しかし、文献目録の作成自体は、
すでに52回大会に決まっていた。52回大
会では責任者とされた。梅田、山内、大橋、石室の4会員の
仕事は若手会に引き継がれた。さしあたり着手
に必要な6万円を支出することを承認。但し、後に目録が
実費販売から引き出すための立替金として支出することとする。

以上。

III 総会 (4:15 ~ 4:25)

1. 理事会議事の1. 承認された新入会員3名の紹介。
2. 次期学会の件。
理事会議事の2. 12... 沼池教授の報告から、
報告者として、11-9の会議内容で池原、高桑の両氏
の名が考へられた。他の報告については、報告者未
定、この旨が述べられた。
3. 国際法学会の件。
理事会議事の2. 12... の報告から、承認された。
4. 文献目録作成の件。
理事会議事の3. 12... として、71万円の支出を、
但し、立替金として引き出す旨、報告から承認。

IV 懇親会

場内は東京青山会館(港区南青山)に移し、
打ち着いた会場の中、なごやかな雰囲気の中で
行なわれた。

V 総会出席者

火采場準一
海光沈美広
欧龍雲
岩崎相
尾高聖
川上太郎
小瀬保郎
川又良也
松田嘉章
杉江徹
鐘藤次郎
田村精一
島居淳子
二宮正人
林脚ト子
丸岡松雄
宮崎光正
山田鏡一
杉山嘉尚
木橋真貴子

池田文雄
江泉芳信
大原栄一
一色平格
如來昭隆
河村博文
経藤明史
佐藤哲夫
沢木敬郎
関口晃
田奈千忍
沼池良夫
田中誠一
能見良子
本浪章市
三浦正久
矢吹徹雄
山本敬三
加藤厚
本棚照一

石黒一臺
尾崎正利
岡本善八
阿部恒基
笠原俊宏
葺野多隆
越川純吉
佐藤幸夫
清水幸雄
曾野和明
田辺信彦
土井輝生
西賢
早田芳郎
松岡博
三ツ木正次
山内惟介
横山潤
古木睦美
矢次昂治

以上 60名